

保険・年金 フォーカス

新型コロナウイルスの感染拡大が 保険会社に与える影響(1) —米国大手保険 G 及び大手再保険 G の 2020 年決算発表による—

取締役 保険研究部 研究理事 中村 亮一
TEL: (03)3512-1777 E-mail: nryoichi@nli-research.co.jp

1—はじめに

米国や欧州においては、2月下旬から3月にかけて、2020年決算発表が行われている。これまで、新型コロナウイルスの感染拡大が保険会社に与える影響については、2020年4月下旬から5月にかけて行われた2020年の第1四半期の業績発表に関して、保険年金フォーカス「[新型コロナウイルスの感染拡大が保険会社に与える影響\(1\)—米国大手保険 G 及び大手再保険 G の 2020 年第 1 四半期業績発表による—](#)」(2020.5.22) 及び「[新型コロナウイルスの感染拡大が保険会社に与える影響\(2\)—欧州大手保険 G の 2020 年第 1 四半期公表による—](#)」(2020.5.27) で報告した。また、2020年7月下旬から8月にかけて行われた2020年の第2四半期の業績発表に関して、保険年金フォーカス「[新型コロナウイルスの感染拡大が保険会社に与える影響\(1\)—米国大手保険 G 及び大手再保険 G の 2020 年第 2 四半期業績発表による—](#)」(2020.8.25) 及び「[新型コロナウイルスの感染拡大が保険会社に与える影響\(2\)—欧州大手保険 G の 2020 年第 2 四半期公表による—](#)」(2020.9.1) で報告した。

今回は、こうした米国や欧州の保険会社の2020年決算発表の中から、大手保険グループの主として財務面からのCOVID-19の影響等に関する公表内容について、2回に分けて報告する。まずは、今回のレポートでは、米国大手保険グループ及び大手再保険グループの状況を報告する。

2—米国大手保険グループの公表内容

ここでは、米国大手保険グループの中から、Prudential Financial、MetLife 及び AIG の状況について、各社のプレスリリース資料等から抜粋して報告する。なお、抜粋箇所等における下線付与は筆者による。

1 | Prudential Financial

Prudential Financial は、その2020年の決算発表¹において、COVID-19に関連して、Charles

¹ https://s22.q4cdn.com/600663696/files/doc_financials/quarterly_reports/2020/Q4/4Q20-Earnings-Press-

Lowrey 会長兼 CEO が「2020 年の異常な出来事と現在進行中の世界的なパンデミックを振り返りながら、変化する世界の経済的課題を解決することによって生活をより良くするという当社の目的を果たすために引き続き献身してくれた従業員に感謝します。」と述べている。

また、その Annual Report の「経営陣による財政状態及び経営成績の考察と分析 - 概要 - COVID-19」の中で、「流動性」、「資本リソース」、「投資ポートフォリオ」、「引受結果」、「経費」及び「事業継続性」等といった観点からの COVID-19 による影響の説明が行われている。

2020 年の第 1 四半期から、COVID-19 の発生により、世界経済と金融市場に極度のストレスと混乱が生じ、世界人口の死亡率と罹患率が上昇した。これらの出来事は 2020 年を通じて当社の経営成績に影響を及ぼし、2021 年の当社の経営成績に影響を与えると予想される。当社はこの危機の影響を管理するためにいくつかの措置を講じている。これらのイベント及びその他の項目の実際の影響及び予想される影響を以下に示す。

・**流動性**。 2020 年 12 月 31 日現在、Prudential Financial の流動性の高い資産は 56 億ドルだった。2020 年の初めから、流動性を積極的に管理するためにいくつかの措置を講じた。例えば、13 億ドルの劣後債務を借り換えて資金調達コストを削減したり、デラウェア信託と 15 億ドルのファシリティ契約を締結して、代替の流動性源を増やしたり、2020 年及び 2021 年の満期前の資金調達の一部として 15 億の劣後債務を発行したりした。2020 年第 1 四半期に Prudential Financial の普通株式 5 億ドルを買い戻した後、既存の買い戻し承認に基づいて 2020 年 4 月 1 日から普通株式の買い戻しを一時停止した。パンデミックの期間と重大度、そしてその経済への影響が不確実なままだったので、2020 年に自社株買いを再開しなかった。2021 年 2 月 4 日、当社の取締役会は、2021 年 1 月 1 日から 2021 年 12 月 31 日までの期間に最大 15 億ドルの発行済み普通株式の買い戻しを承認したと発表した。COVID-19 及び関連市場の影響混乱は、既存の流動性をさらに圧迫し、代替の流動性源の使用を増加させる可能性があり、その結果、バランスシートの財務レバレッジが増加し、信用及び財務力の格付け又は格付けの見通しに悪影響を与える可能性がある。当社の流動性については、「-流動性及び資本リソース-流動性」を参照してください。

・**資本リソース**。 2020 年 12 月 31 日現在、当社の重要な保険子会社は全て、格付け目標と一致する資本水準を維持している。ただし、市況は保険会社の法定資本に悪影響を及ぼし、以下で説明するように、信用の移動や投資ポートフォリオの損失の結果を含め、全体的な資本の柔軟性を制約する可能性がある。不利な市況により、保険子会社が格付け目標と一致する資本を維持するために追加の管理措置を講じる必要が生じる可能性がある。これには、内部資金源からの財源の再配置、利用可能な外部資金源の使用、追加の資金源の探索などが含まれる。当社の資本リソースの説明については、「-流動性及び資本リソース-資本」を参照してください。

・**投資ポートフォリオ**。 満期固定投資（トレーディングに分類された有価証券を除く）の正味未実現利益（損失）は、2019 年 12 月 31 日現在の正味未実現利益 44,891 百万ドルに対して、2020 年 12 月 31 日現在の正味未実現利益は 58,928 百万ドルだった。利益は 2019 年 12 月 31 日現在の 46,206 百

[Release_Final.pdf](#)

万ドルから 2020 年 12 月 31 日現在の 59,980 百万ドルに増加し、未実現損失総額は同期間に 1,315 百万ドルから 980 百万ドルに減少した。総未実現利益の増加及び総未実現損失の減少は、主に米国の金利の低下によるものだった。COVID-19 の世界経済や企業の信用への継続的な影響は、マイナスの信用移行や投資ポートフォリオの損失につながる可能性がある。これらの状態は非常に不確実であるため、現時点では全体的な影響を見積もることはできない。COVID-19 危機の影響を最も受けたセクターには、エネルギー、消費者循環投資、小売関連投資が含まれる（詳細については、「一般勘定投資」を参照してください）。2020 年の間に、総投資資産の約 1.4%が、有期の支払猶予を可能にするために変更された。支払猶予の条件の下で、借り手は、当年度の元本及び／又は利息の支払いの一部を短期間（例えば、6 か月）延期することが許可されている。これらの延期は追加の利息を発生させ、当社の投資価値に重大な影響を与えることはない。

・**引受結果。** 2020 年には、COVID-19 が引受実績に正味のマイナスの影響を及ぼしたと推定している。これは、グループ保険及び個人生命保険事業における死亡率の悪影響を反映しているが、退職事業における死亡率の影響により一部相殺されている。今後、当社の正味引受実績は、米国での 10 万人の死亡者が増えるごとに約 85 百万ドルの悪影響を受けると予測している。ただし、引受結果への最終的な影響は、次のような要因によって異なる。被保険者の年齢、地理的集中、死亡者の中での被保険者と無保険者の人口、さらなる突然変異の可能性を含むウイルスの伝染性と毒性、ワクチンの展開のスピードと有効性。さらに、該当する場合、当社の各セグメントにおける死亡率の経験については、「セグメント別の経営成績」を参照してください。

・**経費。** 2020 年には、主にエージェントの報酬に関連する COVID-19 に関連するコスト、及びリモートワーク機能と従業員の健康の保護に関連するテクノロジーとサードパーティベンダーの機能により、約 1 億 50 百万ドルの高額な費用が発生した。ただし、2020 年には COVID-19 に関連するコスト削減も約 1 億 10 百万ドルだった。これは、主にと旅行と接待のコストの削減によるものである。

COVID-19 のパンデミックに対応して、保険料支払いの猶予期間の延長、請求支払いと引き出し要求の迅速化、特定の請求支払い要件の免除、特定の取引手数料の免除、ポリシーローンの利息の免除、会社の費用での資金調達など、多くの顧客対応を提供してきた。

・**事業継続性。** COVID-19 パンデミックの主な影響の 1 つは、従業員の安全と顧客へのサービス提供を確実にするために、ビジネス継続性プロトコルを実行することである。これには、従業員の大多数をリモートワークの手配に効果的に移行することが含まれていた。

私たちは、全ての事業が、重要な事業運営を維持しながら、リモートワークと社会的距離を無期限に維持できると信じている。さらに、サードパーティが提供するサービスに対する COVID-19 関連の影響を管理しており、重要なオペレーションの大幅な中断は想定されていない。

上記の考慮事項に加えて、他の COVID-19 関連の影響について、このドキュメントの次のセクションで説明している。

・**ビジネスの見通し。** COVID-19 に関連する影響を含む、各事業の具体的な見通しに関する考慮事項については、「見通し」を参照してください。

・**セグメント別の経営成績。** 該当する場合、セグメントの結果に対する COVID-19 の影響の説明に

については、「セグメント別の経営成績」を参照してください。

・**販売とフロー**。各セグメントの売上高及びフローについては、「セグメントの経営成績」を参照してください。

・**危機管理**。当社のリスク管理フレームワーク及びパンデミックストレスシナリオの組み込みについては、「リスク管理-COVID-19」を参照してください。

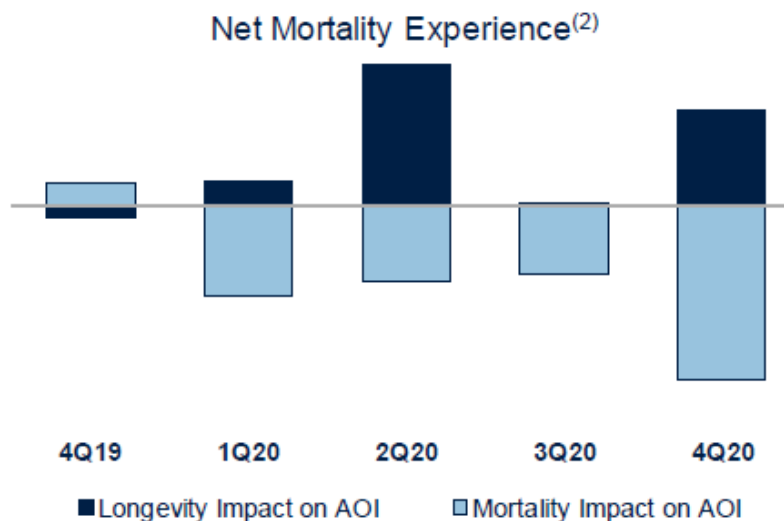
・**リスク要因**。COVID-19 パンデミックによって引き起こされる当社の事業へのリスクの議論については、フォーム 10-K の Prudential Financial の 2020 年年次報告書に含まれる「リスク要因」を参照してください。

・**CARES 法及びその他の規制の進展**。追加情報については、フォーム 10-K の Prudential Financial の 2020 年年次報告書に含まれている「ビジネス-規制-COVID-19 パンデミックに対する規制対応」を参照してください。

第 4 四半期における正規化された COVID-19 の推定影響額は、第 4 四半期の調整後営業利益 (Adjusted Operating Income : AOI) (税引前) 1,515 百万ドルに対して▲65 百万ドルであるとしている。

さらに、第 4 四半期の経費に関して、PGIM における 15 百万ドルの COVID-19 費用の節約、Gibraltar Life 及びその他における 5 百万ドルの COVID-19 費用、コーポレート及びその他における 500 万ドルの COVID-19 費用の節約が報告されている。

また、第 4 四半期までの死亡リスク及び長寿リスクへの影響について、以下の図表の通りとしている (プレゼンテーション資料²P13 「COVID-19 Potential Net Mortality and Cost Impacts」より)。



これに対して、以下の説明が行われている。

- ・長寿リスクにより、死亡リスクが軽減されている。
- ・一般集団と比較して、影響は、当社の若い年齢分布、引受の影響を反映した保険死亡率の低下、及び長寿事業に関連する相殺によって軽減されている。

² https://s22.q4cdn.com/600663696/files/doc_financials/quarterly_reports/2020/Q4/4Q20-Earnings-Call-Presentation_Final2.pdf

・米国の死亡者数が 10 万人増えるごとに⁽¹⁾：

- ・収益が最大 85 百万ドル減少する可能性がある。
- ・影響は、感染率と死亡率、地理的集中度、被保険者と一般人口の死亡率、ワクチンの展開の速度と有効性、英国の死亡率などの要因によって異なる。

(1)米国の死亡者数を代替使用して、英国の死亡者数も含んでいる。

(2)死亡の予測に対する経験は、個人生命、団体生命、国際事業を、長寿の予測に対する経験は退職事業を含む。

2 | MetLife

MetLife は、その 2020 年決算発表³において、COVID-19 の影響に関して、事業別に以下の説明を行っている。なお、COVID-19 による影響の大部分は、上半期におけるものであると述べている。

団体給付

調整後利益は、費用マージン、引受、及び取引量の増加により、16%増の 3 億 83 百万ドルだった。引受結果は COVID-19 の影響を受け、死亡率の上昇を相殺する以上に非医療的健康が良好だった。

ラテンアメリカ

調整後利益は 14 百万ドルで、報告された通貨ベースと恒常通貨ベースの両方で 91%減少した。これは主に、COVID-19 の引受結果によるものである。

COVID-19 関連のチャレンジがこの地域の殆どに影響を与えたため、売上高は 1 億 69 百万ドルで、恒常通貨ベースで 23%減少した。

また、年間報告書にあたる「Form 10-K」⁴における「Management's Discussion and Analysis of Financial Condition and Results of Operations」の「エグゼクティブサマリー」の中の「今年のハイライト」において、COVID-19 の影響等について、以下のように「2020 年には、COVID-19 パンデミック及び関連する制限の悪影響にもかかわらず、調整後の保険料、手数料、及びその他の収益（外貨変動を除く）は、多くのセグメント、特に最も重要な米国セグメントで、2019 年と比較して増加した。」と述べている。

エグゼクティブサマリー

今年のハイライト

2020 年には、COVID-19 パンデミック及び関連する制限の悪影響にもかかわらず、調整後の保険料、手数料、及びその他の収益（外貨変動を除く）は、多くのセグメント、特に最も重要な米国セグメントで、2019 年と比較して増加した。プラスのネットフローにより、投資ポートフォリオが増加した。しかし、投資利回りは低下した。利息貸方費用を含む費用も減少した。引受経験は 2019 年と比べて良好であり、COVID-19 パンデミック及び関連する制限の影響を反映している。さらに、毎年の保険数理上の仮定のレビューの結果、2019 年の保険料率よりも高い保険料率が発生した。2019 年におけるデリバティブの純利益（損失）の有利な変化は、主に長期金利の低下の結果によるものだった。

³ https://s23.q4cdn.com/579645270/files/doc_financials/2020/q2/MET_2Q20_Earnings_Release-FINAL-2.pdf

⁴ <http://d18rn0p25nwr6d.cloudfront.net/CIK-0001099219/ea8a8f5c-5ac4-4c7f-8164-2c511a781b90.pdf>

また、「連結会社の見通し」の中で、COVID-19 が会社に与える影響の見通し等についても述べられており、例えば「COVID-19 パンデミックに関連するイベントは、当社の特定の事業運営、投資ポートフォリオ、デリバティブ、業績又は財政状態に悪影響を及ぼし続ける可能性がある。」と述べている。また、「COVID-19 パンデミックの進化する非常に不確実な性質及びその他の要因により、私たちは継続的に私たちの仮定を見直し、緩和計画を実施し、予防策を講じる。」としている。

連結会社の見通し

COVID-19 パンデミックに関連する進展を引き続き注意深く監視し、それが当社の事業に与える影響を評価する。COVID-19 パンデミックは、世界経済と金融市場に影響を与え続けており、世界の株式、クレジット、不動産市場にボラティリティを引き起こしている。政府や企業は、旅行の禁止と制限、検疫、ソーシャル・ディスタンス、シェルターインプレイス又は完全なロックダウン命令、ビジネスの制限とシャットダウンなど、ウイルスを封じ込めようとする多くの対策を講じてきた。一部の政府や企業は、いくつかの制限を緩和し始めている。以前に解除した制限を復活させたケースもある。それにもかかわらず、これらの措置は事業活動を混乱させ、今後も混乱させ続け、金融市場の景気減速とボラティリティをもたらし、世界中の政府と中央銀行が前例のない財政及び金融政策で対応してきた。ワクチンが利用できるようになったが、人口のかなりの割合がワクチン接種を受けるまでには、配布とアクセスに時間がかかると予想される。「-業界の動向-金融及び経済環境」を参照してください。

さらに、長期にわたる低金利又はほぼゼロ金利の環境が依然として続く可能性がある。連邦準備制度理事会の経済予測は、現在の低金利環境が 2023 年まで、そして潜在的にはもっと長く続くことを示唆している。当社の投資ポートフォリオは非常に分散化しており、景気後退に耐えるのに適したポジションにあると信じている。ただし、COVID-19 パンデミックの市場関連の影響、及び持続的な低金利環境は、引き続き投資ポートフォリオ全体に影響を与えると予想される。市場金利が当社の業績の主要な推進力であるため、金利感応度を低下させるために当社が講じた緩和措置の説明については、「-業界動向-持続的な低金利環境の影響」を参照してください。

COVID-19 パンデミックに関連するイベントは、当社の特定の事業運営、投資ポートフォリオ、デリバティブ、業績又は財政状態に悪影響を及ぼし続ける可能性がある。「リスク要因」を参照してください。当社は、リスク管理及び事業継続計画を実施し、予防措置及びその他の予防措置を講じた。これにより、これまで、重要なビジネスプロセス、顧客サービスレベル、主要ベンダーとの関係、財務報告システム、財務報告及び開示管理及び手順に対する内部統制を維持することができた。

当社は、(i) 延期された利上げなどの除外の免除、保険料払込猶予期間の延長、延滞手数料の免除、及び請求書類の要件の緩和、(ii)自動車及び保険付きの歯科保険料、(iii) 特定の商業、農業及び住宅ローンの支払い延期及びその他のローンの変更、及び (iv) 特定の営業及び直接融資のリースセッション、を含む、特定の便宜をお客様、借手、及び賃借人に認め、これを付与し続ける。COVID-19 パンデミック関連のモーゲージローン及びリースセッションに関する詳細については、連結財務諸表注記の注記 8 を参照してください。「-経営成績-セグメント業績及び企業及びその他-米国」も参照してください。

2020 年 12 月 31 日の時点で、持ち株会社には 45 億ドルの現金及び流動資産があり、これは持ち株

会社の現金目標である 30 億ドルから 40 億ドルの上限を上回っている。2021 年には、この持ち株会社の現金目標を維持し、この範囲の上限内又は上限を超えると予想している。

当社の資本ストレステストと流動性への長年の取り組みにより、現在の危機に耐えることができる。当社は、通常よりも高い短期流動性を維持しており、今後も維持する可能性がある。これは、再投資プロセスが長期間にわたって発生した場合、純投資収益に悪影響を与える可能性がある。当社は、重大な流動性の不足は見込んでおらず、当社の信用契約の財務制限条項を引き続き遵守できると見込んでいる。「流動性及び資本リソース」を参照してください。当社は、資本及び流動性への影響について、会計上の見積り、資産評価、及び様々な財務シナリオを引き続き検討する。詳細については、「投資-現在の環境」及び「リスク要因」を参照してください。

(i) 2020 年 12 月 31 日現在の 0.91%及び 2021 年 12 月 31 日現在の 1.12%の 10 年米国債レートを含む 2020 年 12 月 31 日現在の観察可能なフォワードイールドカーブに従った金利、及び (ii) 2021 年通年の S&P 500 株式指数の 1 桁台半ばの増加、を仮定して、2020 年と 2021 年の 2 年間の調整後利益に対するフリーキャッシュフローの平均年率が 65%から 75%になると予想している。さらに、当社は 2020 年から 2024 年までの期間に、約 200 億ドルのフリーキャッシュフローを生み出す軌道に乗っている。

当社は、不況のない市況を想定して、短期的に 12%から 14%の外貨換算調整（「FCTA」）以外のその他の包括利益累計額（「AOCI」）を除いて、調整後株主資本利益率を引き続き目標としている。ただし、(i) COVID-19 パンデミック及びその他のイベントの影響の可能性、(ii) 2021 年第 2 四半期に処分を終了する予定であるため、調整後収益からの MetLife P&C の除外、を考慮して、さらに (iii) a) 金利は、上記の段落に記載されている 2021 年通年にわたる 10 年間の米国債レートの更新された仮定を含む、2020 年 12 月 31 日現在の観察可能なフォワードイールドカーブに従う、(b) 2021 年通年の S&P500 株式指数の 1 桁台半ばの上昇、及び (c) 2021 年のプラスの 2 桁のプライベートエクイティリターンを仮定すると、2021 年の目標範囲の下限を下回る可能性がある。

当社は、直接経費及び 12.3%未満の年金リスク移転に関連する注目すべき項目の合計を除いて、直接経費率の達成に全力で取り組んでいる。

直接経費率が低い MetLife P&C の処分が保留されているため、2021 年にはこの比率に圧力がかかると予想されるが、引き続き経費規律を行使し、2022 年には 12.3%を下回る予定である。

さらに、2019 年 12 月の投資家の日に導入されたネクストホライズン戦略にも引き続き全力で取り組んでいる。

当社の見通しは、COVID-19 パンデミックによってもたらされるような既知及び未知のリスクやその他の不確実性の影響を受ける可能性のある将来の経済及び事業状況に関する当社の仮定の正確さに依存している。COVID-19 パンデミックの進化する非常に不確実な性質及びその他の要因により、私たちは継続的に私たちの仮定を見直し、緩和計画を実施し、予防策を講じる。COVID-19 パンデミックの影響、それに対応するために取られた努力の効果と有効性、経済状況、規制の変更、及びその他のイベント、及びこれらのイベントが当社に与える影響、事業運営、投資ポートフォリオ、デリバティブ、業績及び財政状態に関する詳細情報を入手した時点で、見通しを修正する可能性がある。

3 | AIG

AIG は、その 2020 年の決算発表⁵において、COVID-19 の影響について、Brian Duperreault CEO は、以下のように述べている。

「AIG の第 4 四半期及び 2020 年通年の業績は、長期的で持続可能かつ収益性の高い成長に AIG を位置付けるために私たちが行っている継続的な進歩を示している。私たちは COVID-19 と自然災害の影響を効果的に管理しており、前例のない不確実性のこの環境で十分な資本を維持している。」

また、プレゼンテーション資料⁶の中で、以下のように述べている。

- COVID-19 の死亡率とベーススプレッドの圧縮にもかかわらず、35 億ドルの生命保険及び退職の APTI (調整済税引前利益) は、強力な株式市場のパフォーマンスと、より高いコール及び入札収入に牽引されている。
- 損害保険における 24 億ドルの CATs ((再保険控除後の) カタストロフィ損失)。これには、暴風雨や雹嵐、山火事、市民不安などの事象による 13 億ドルの非 COVID-19 CATs、及び主として商業用不動産、Validus Re、コンティンジェンシー及び旅行における 11 億ドルの COVID-19 CATs が含まれる。

より、具体的には、繰り返しになるが、以下のように記述されている。

- 損害保険 APTI は、主に次の理由により、2019 年から 16 億ドル減少した。
 - 11 億ドルの COVID-19 CATs を含む CATs の 12 億ドルの増加
 - NII (ネット投資収入)、APTI ベースの 5 億ドルの減少
 - 2019 年と比較して 2020 年のより低い有利な PYD (再保険控除後の昨年進展) を反映して、有利な PYD 比率が 1.0 ポイント減少
 - 調整後の AYCR (事故年度コンバインドレシオ) での 1.9 ポイントの改善により部分的に相殺
- 生命保険及び退職 APTI はほぼ横ばい。結果は、COVID-19 の死亡率、ベーススプレッドの圧縮、FVO 債券収入の減少の影響を反映しているが、プライベート・エクイティのリターンの増加と、金利の低下と信用スプレッドの縮小による好影響により、コール収入と入札収入が増加している。

さらに、プレゼンテーション資料⁷においては、事業部門別や商品ライン別に COVID-19 の影響についての説明が行われているが、ここでは報告を省略する。

3—大手再保険グループの公表内容

ここでは、大手再保険グループから、Munich Re (ミュンヘン再保険) と Swiss Re (スイス再保険) の状況について、各社のプレスリリース資料等から抜粋して報告する。なお、抜粋箇所における下線

⁵ https://www.aig.com/content/dam/aig/america-canada/us/documents/investor-relations/2020/aig_reports_2q_2020_results.pdf

⁶ <https://www.aig.com/content/dam/aig/america-canada/us/documents/investor-relations/2021/4q-2020-aig-financial-results-presentation.pdf>

⁷ <https://www.aig.com/content/dam/aig/america-canada/us/documents/investor-relations/2021/4q-2020-aig-financial-results-presentation.pdf>

付与は筆者による。

1 | Munich Re

Munich Re は、その 2020 年の決算発表⁸において、COVID-19 の影響について、Joachim Wenning 会長は、「COVID-19 によってもたらされた途方もない挑戦にもかかわらず、Munich Re は明確な利益で 2020 年を締めくくった-そして私たちの配当は信頼できるままである。2021 年には、パンデミック前に想定していた利益目標を達成できると見込んでいる。」と述べている。

また、「Munich Re は、2020 年に 1,211 百万ユーロ（2019 年は、2,707 百万ユーロ、以下同様）、第 4 四半期に 212 百万ユーロ（217 百万ユーロ）の利益を生み出した。2020 年は、COVID-19 に関連した高い損失によって特徴づけられた。再保険では、合計 34 億ユーロのパンデミック関連の損失が計上され、そのうち 3 億 7000 万ユーロは生命及び医療の再保険に起因し、30 億ユーロをわずかに超える額は損害保険に起因していた。ERGO では、COVID-19 による結果への悪影響は合計 6,400 万ユーロだった。上記の損失を調整すると、当グループは 2020 年 3 月に撤回された、当初想定されていた 2020 年の利益目標である 28 億ユーロを達成した。」と述べている。

事業部門別には、以下の通りと報告されている。

(1)再保険

それぞれが 1,000 万ユーロを超える大規模損失は、通年で合計 4,689 百万ユーロ（3,124 百万ユーロ）、第 4 四半期で 1,191 百万ユーロ（1,462 百万ユーロ）だった。これらの数値には、前年度からの大規模損失の決済による利益と損失が含まれている。大規模損失支出は、正味収入保険料の 20.8%（15.2%）に相当し、長期平均の 12%を大幅に上回っている。これは主に、コロナウイルスのパンデミックに関連する大規模損失に起因していた。これに関連して、大規模イベントのキャンセル又は延期に関連して最も重大な損失が発生した。小規模ではあるが、事業の中断を含む、他の損害保険の再保険にも損失があった。これら及びその他の人為的な大規模損失は、合計でかなりの 3,784 百万ユーロ（1,071 百万ユーロ）になった。

(2)ERGO

Munich Re は、COVID-19 に起因する負担にもかかわらず、2020 年に ERGO 事業分野で 517 百万ユーロ（44 百万ユーロ）の利益を生み出し、第 4 四半期には 136 百万ユーロ（11 百万ユーロ）の利益を生み出した。これは、ERGO が戦略プログラムを無事に完了し、2020 年の利益ガイダンスである 530 百万ユーロをほぼ達成したことを意味している。

ERGO 損害保険ドイツセグメントは、主に強力な保険料の伸びと優れた技術的成果により、157 百万ユーロ（148 百万ユーロ）の利益を生み出した。COVID-19 の影響は、主要な損失の減少によって緩和された。ERGO 生命保険&医療ドイツは、130 百万ユーロ（187 百万ユーロ）の結果を報告した。この減少は主に、健康分野への投資結果の減少と旅行保険への COVID-19 の影響が原因で発生した。

また、今後の見通しにおける COVID-19 の影響に関しては、「グループは、COVID-19 による財務

⁸ <https://www.munichre.com/en/company/media-relations/media-information-and-corporate-news/media-information/2021/media-information-2021-02-25.html>

上の影響は、2020年よりもかなり小さいと予想している。」と述べている。具体的には、「損害保険再保険のコンバインドレシオは、約96% (COVIDによる負担なしで95%) になると予測されている。」、「ERGOは、損害保険ドイツセグメントで92% (COVID-19の支出なしで91%)」と述べている。

2 | Swiss Re

Swiss Reは、その2020年の決算発表⁹において、COVID-19の影響について、Christian Mumenthaler CEOが、以下のように述べている（日本語参考訳からの抜粋）。

「新型コロナウイルスのパンデミックは未だに世界中のコミュニティと企業に影響を与え続けています。ワクチン接種が開始されたことにより、まもなくこのパンデミックの状況が改善されるという希望が芽生えてきました。当グループは、この危機を確固たる信念で乗り越えてきました。そして、パンデミックの課題を軽減し、将来のシステミック・リスクに対するレジリエンスを高める衝撃吸収材としての役割を果たしています。」

「実際の保険金請求は徐々に上がってくるため、当社はパンデミックの当初から規律ある慎重な姿勢で準備金の積み立てを行ってきました。2021年には新型コロナウイルス関連の損失がさらにいくらか増えることが予想されますが、損害保険種目の該当エクスポージャーを大幅に削減しました。1月の契約更改を含め、損害再保険事業及びコーポレート・ソリューションズにおけるポートフォリオの質と引受収益率の広範な改善に期待を寄せています。」

また、実際の影響額等については、以下のように報告されている。

「新型コロナウイルス関連の支払保険金及び準備金（税引前）の39億米ドルを除くグループの当期純利益は2019年の7億2,700万米ドルから22億米ドルに増加し、株主資本利益率（ROE）は7.3%」

「損害再保険事業の純損失は2億4,700万米ドル。新型コロナウイルス関連の損失を除いた純利益は13億米ドル、ROEは13.2%」

「生命・医療再保険事業の純利益は7,100万米ドル。新型コロナウイルス関連の損失を除いた純利益は8億5,500万米ドル、ROEは10.4%」

「コーポレート・ソリューションズの業績回復は計画を上回る。新型コロナウイルス関連の損失を除いた純利益は3億9,300万米ドルに増加し、ROEは16.5%」

さらに、2021年の見通しについては、以下のように述べられている。

「現在の情報に基づき、2021年の損害保険事業における新型コロナウイルス関連の追加の保険金支払額及び準備金は5億米ドル未満になると見込んでいます。パンデミックに関連する多くの要因を取り巻く不確実性は依然として高く、実際の保険金支払の動きは上下に振れる可能性があります。」

なお、Swiss Reは、新型コロナウイルス関連の支払保険金及び準備金の詳細について、以下の通りに報告している。

⁹ <https://www.swissre.com/media/news-releases/nr-20210219-fy-2020-news-release.html>

<https://www.swissre.com/japan/news-insights/news-release/nr-20210219-fy-2020-news-release-japan.html>（日本語参考訳）

2020 年度新型コロナウイルス関連の支払保険金および準備金の詳細(百万米ドル)

	損害再保険	生命・医療再 保険	コーポレート・ ソリューションズ	ライフ・キャピタル	合計
イベント中止	411		404		815
事業中断	1104		294		1398
信用・保証保険	53		198		251
死亡		889		23	912
その他	342	110	47	4	503
合計	1910	999	943	27	3879

また、事業部門別についての追加情報としては、以下の内容が述べられている（日本語参考訳からの抜粋に基づく）。

(1)損害再保険事業 (P&C Re)

- ・新型コロナウイルス関連の保険金支払額と準備金を除くと、損害再保険事業の 2020 年の純利益は、2019 年の 3 億 9,600 万米ドルから増加し、13 億米ドルになりました。新型コロナウイルスによる損失を除いた ROE は 13.2%
- ・新型コロナウイルスに関連する損害再保険事業の保険金支払額及び準備金は 19 億米ドルに達し、米国会計基準純損失額は 2 億 4,700 万米ドル、損害再保険事業の新型コロナウイルス関連損失額の約 80%は、物的損害を伴わない事業中断保険、イベント中止・延期保険、損害賠償責任保険及び保証・信用保険に関する既発生未報告損害 (IBNR) 準備金である。

(2)生命・医療再保険事業

- ・新型コロナウイルス関連の保険金支払額と準備金を除くと、生命・医療再保険事業の 2020 年の純利益は、ROI 3.7%という好調な投資実績に支えられ、8 億 5,500 万米ドルとなった。新型コロナウイルスによる影響を除いた ROE は 10.4%だった。
- ・新型コロナウイルス関連の保険金支払額と準備金を除くと、生命・医療再保険事業の 2020 年の純利益は、ROI 3.7%という好調な投資実績に支えられ、8 億 5,500 万米ドルとなった。新型コロナウイルスによる影響を除いた ROE は 10.4%となった。

(3)コーポレート・ソリューションズ

- ・新型コロナウイルス関連の損失を除いた場合、コーポレート・ソリューションズは、2019 年の 6 億 4,700 万米ドルの純損失から、2020 年は 3 億 9,300 万米ドルの純利益まで回復した。
- ・新型コロナウイルスに関連する保険金支払額と準備金は、2020 年通年で合計 9 億 4,300 万米ドルとなり、米国会計基準純損失は 3 億 5,000 万米ドルとなった。損失の約 40%は、コーポレート・ソリューションズが 2019 年に撤退したイベント中止保険に関連して予想される支払保険金の準備金で、損失の 3 分の 1 は事業中断保険に関連する損失、その他の損失は主に保証・信用保険の支払保険金に関連するものだった。

(4) ライフ・キャピタル

- ・ライフ・キャピタルは、主にオープンブック事業への継続的な投資により、2020 年に 2 億 6,500 万米ドルの純損失を計上しました。新型コロナウイルスに関連する損失は、2,700 万米ドルにとどま

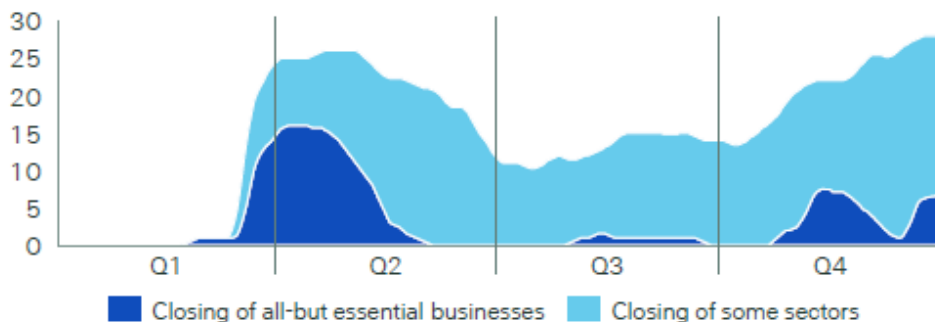
った。

(参考) Swiss Re のプレゼンテーション資料¹⁰における報告内容 (抜粋)

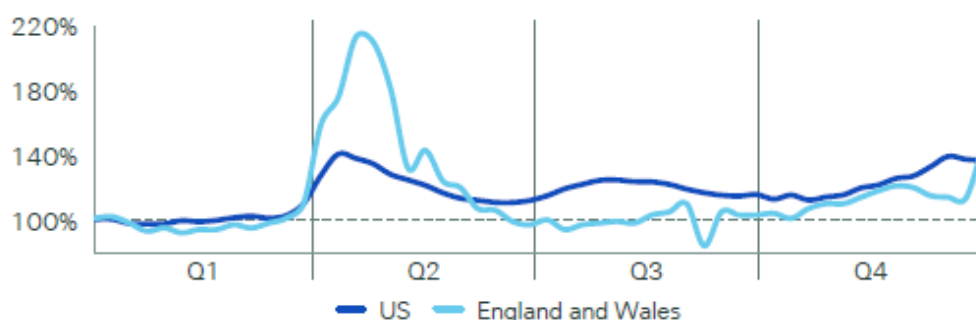
Swiss Re は、そのプレゼンテーション資料において、COVID-19 の影響に関して、例えば以下の説明を行っている。今回の COVID-19 の全体像を見る上で、大変参考になると思われるので、抜粋して掲載させていただく。詳細は、Swiss Re の資料を参照いただきたい。

1. COVID-19 の損失の大部分は、主として事業中断と超過死亡から、第 2 四半期と第 4 四半期に発生している。

Business closings in Europe¹ (number of countries)

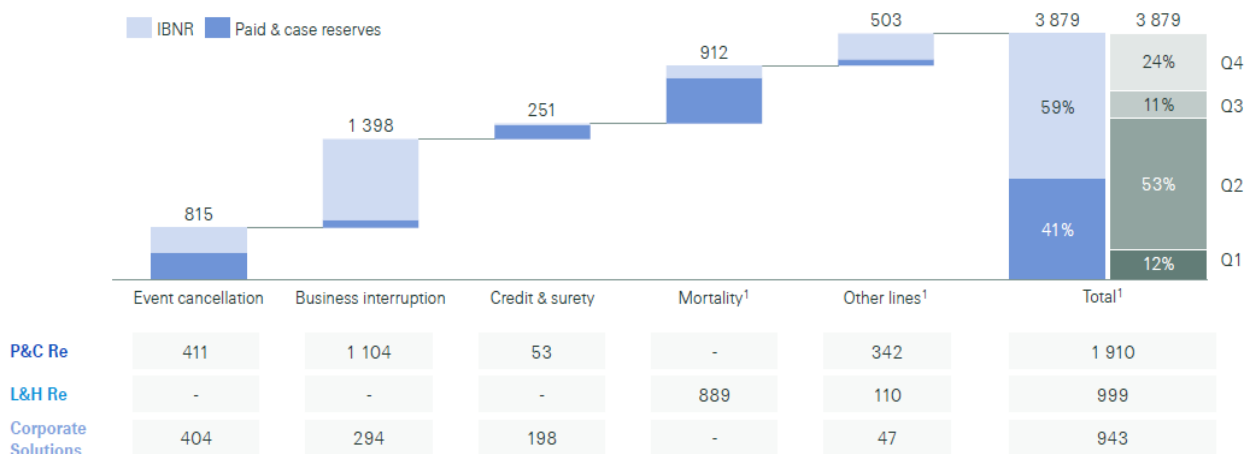


Excess mortality in the US, England and Wales² (% of expected)



2. 米国会計基準による COVID-19 の報告された損失は、高水準の IBNR を反映している。事業中断保険を中心に、全体の 59%が IBNR となっている。

Swiss Re's reported COVID-19 losses in FY 2020 (USD m. pre-tax)



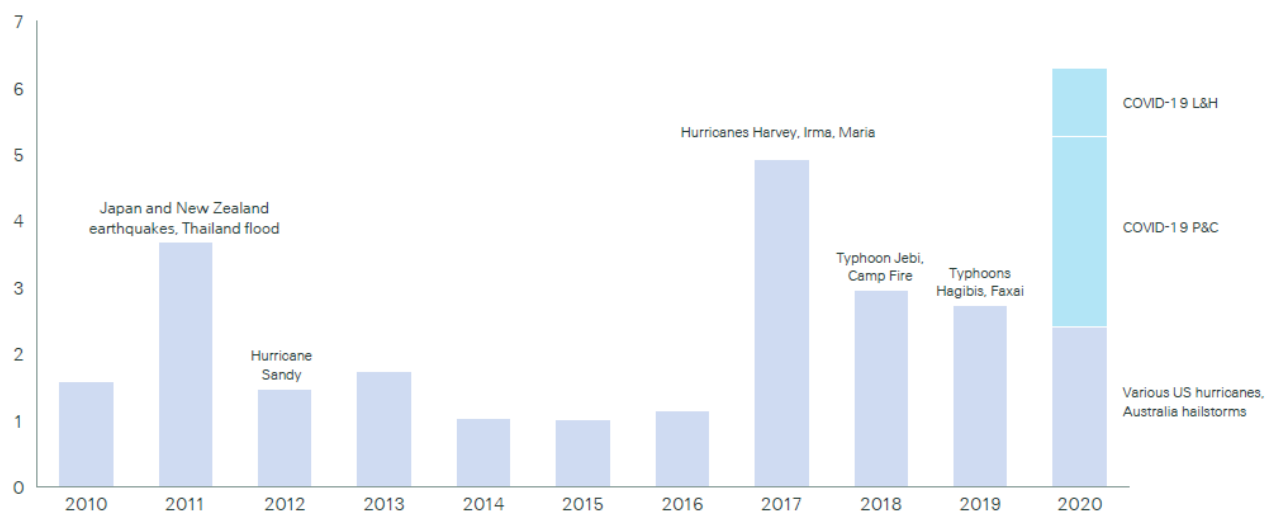
¹⁰ <https://www.swissre.com/dam/jcr:44cb7cb8-71e5-4eca-ae42-0452b65feca4/hy-2020-slides-presentation-doc.pdf>

3. 残りの COVID-19 の損失は 2021 年に損害保険再保険やコーポレート・ソリューションズで 5 億ドル未満と想定されている。

	Pre-tax US GAAP losses booked in FY 2020 (USD)	Best estimate of pre-tax US GAAP losses ¹ in FY 2021 (USD)
Event cancellation	0.8bn	<0.2bn
Business interruption	1.4bn	<0.1bn
Credit & surety and other lines	0.8bn	<0.2bn
Mortality	0.9bn	~0.2bn pre-tax US GAAP losses per 100k US excess deaths (USD)

4. COVID-19 による損失額は、過去に記録された巨大大事を上回る最大級のものとなっている。

Swiss Re's reported large nat cat and man-made losses¹ (USD bn, pre-tax)



4—まとめ

以上、今回のレポートでは、米国大手保険グループ及び大手再保険グループの 2020 年決算のプレスリリース資料等から、COVID-19 の影響等に関する公表内容について報告してきた。

各社の公表内容は、各社各様で、その説明資料等も様々である。今回の報告は、あくまでも各社の公表資料の中から、筆者が抜粋したものを報告しているので、このレポートで報告されたものが全てではないことを述べておく。

いずれにしても、各社とも、2020 年決算において、COVID-19 によって、事業全体が広範な影響を受けた

ことを述べており、その説明を行っている。また、損害保険(再保険)事業を中心に、収益面での影響も大きなものであったことを公表している。一方で、同時に、これらの COVID-19 の影響にも関わらず、会社の財務状況の堅固さや顧客対応等の業務運営は揺るぎないものである等との声明も公表している。

次回のレポートでは、欧州大手保険グループの 2020 年決算における COVID-19 の影響等に関する公表内容について報告する。

以上